



いろり



発行

奥州市 地域づくり推進課

奥州市江刺大通り1番8号

0197-34-1618(直通)

～団体の活動紹介～

なんでもやろう会

～キャッチフレーズ～

費用は自弁、報酬は心の豊かさと感動

なんでもやろう会は、高齢者が生き生きと活躍できる場をつくるためにまさになんでもやろうと、様々な手づくりイベントを行っている団体です。

同会を結成する契機は、旧水沢市社会福祉協議会の会長であった故油井明さんが、高齢者の生きがいづくりを促進するため、イベントの企画や立案、運営を行うスタッフを公募したことでした。油井さんは、高齢者が夢や希望を抱きながら活躍できる場づくりを「生きる喜びを共有するステージづくり」と提唱し、旧水沢市民に参加を呼びかけました。この呼びかけに賛同する仲間が集まり2003年、同会を設立しました。

設立後はまず始めに「生きる喜びを共有するステージづくり」をどのように進めていくか会員同士が意見を持ち寄り、話し合いを重ねました。話し合いでは「健康づくりの普及につなげる活動がいいのではないか」、「土地柄、先人・偉人を学ぶ活動はどうか」など、多数の意見が出されました。このような話し合いを幾度も続けていくうちに、郷土出身に由来する土地や施設、景勝地などを訪ねる探訪の旅を開催することにしました。探訪の旅は、市民を巻き込みながら行うもので、2004年に実施した「知られざる水沢探訪の旅 菅原道真公ゆかりの地を訪ねて」を皮切りに、これまで18年間にわたり行って

きました。特に第2回目に実施した「岩手孝子物語（正岡子規）を訪ねて」は、俳人・歌人の正岡子規が水沢出身のある青年の歌を詠んでいたことを学びました。歴史に隠された知られざるこの青年の実話をより多くの市民に知ってもらおうと、いぶし銀芝居「岩手の孝子物語」の上演を行い、その後、大型紙芝居に作り直して各地で披露しました。いぶし銀芝居は、実行委員会を立ち上げ、多くの方々の協力を得ながら旧水沢市初の市民劇として取り組み、上演時は客席から大きな拍手が送られ、大好評で幕を閉じることができました。また、大型紙芝居は、各地域や福祉施設、子ども会など、これまでに100回以上の上演会を行い、紙芝居を通して親孝行や家族の絆等の大切さを伝えてきました。

そのほか、震災復興支援事業として、陸前高田市を訪問。被災された方々に寄り添いながら、元気と笑顔を取り戻すために、大型紙芝居や講演、歌謡・演舞を披露するなどして交流を行いました。

現会長の及川昭さんは「これまで市民の皆さんに参加していただきながら活動を行ってきました。今後も生き生き輝きながら人生を送れるよう、楽しんでいきたいです」と明るく話してくれました。



大型紙芝居をしている様子



知られざる水沢探訪の旅に参加した皆さん



- 団体名 なんでもやろう会
- 設立 2003年
- 代表 及川 昭
- 趣 旨 会員相互の親睦を図りながら夢と希望に満ちた様々なプランを創案して市民による手作りイベントづくりをすることで、地域の活性化といつまでも元気でいられる福祉社会づくりを目的とする。

青年が母を人力車に乗せて、東京（480キロ）までの道のりを上京した実話を題材にした芝居

～団体の活動紹介～

豪鳳を考える会

及川豪鳳（本名一（はじめ））は、明治27年、現奥州市江刺中町生まれ。19歳で日本画家を志して上京し、東京芸術大学日本画科の前身である川端画学校に入学。その後、在学中に両親が相次いで亡くなり、やむなく帰郷。郷里のために描き続けた作品は、江刺地域を中心に200点以上点在している。

豪鳳（ごうほう）を考える会は、江刺中町出身の日本画家・書家の及川豪鳳が生前に描いた作品をデジタル化することで後世に作品を残すとともに、作品の展示活動を通じて地域の偉人である及川豪鳳を広く世に知らしめようと活動を行っている団体です。

豪鳳の作品は、江刺を中心とした商家や個人宅などの襖絵、掛け軸など数多くありますが、水沢や前沢などにも多数点在しています。その多くの作品は、時代が経つにつれて経年劣化や汚損が進み、また、世代交代等で家の建て替えなどにより、紛失や処分されているのが現状です。こうした実態を憂慮した及川佐さん（同会会長）は、豪鳳の孫である及川利春さんに、大切な遺作品を今のうちにデジタル化して残すことを相談し、承諾を得ることができました。利春さんの後押しを受けた佐さんは、この話を地元の中町振興会に提案し賛同する有志とともに2021年、同会を発足しました。

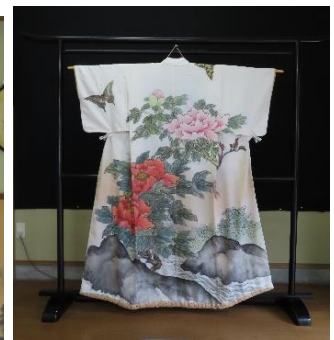
同会は、発足した4月からすぐに作品を通じて豪鳳の魅力に触れてほしいと、えさし郷土文化館を会場に「没後50年を超えて 豪鳳特別展」と題した展示会を開催しました。展示会に飾った作品は、遺族や会員、所有者などから協力を得て約30点を展示することができました。また、8月には、奥州市市民提案型協働支援事業補助金制度を活用した展示会「豪鳳中町展」を実施しました。この展示会

は、中町周辺の地域にある作品を中心に展示したもので、初めて公開する絵画や実物の着物、現物の戸袋などを展示しました。会場に搬入することが難しい大きな絵画は、作品の素晴らしさを生で実感してもらうため、部分的に撮影し大判プリンターで印刷して、実物大の大きさで展示しました。このような展示会は、撮影時の手振れや写真の色合い等で苦勞することも多々ありましたが、展示会を開催したことによって、改めて豪鳳の作品を地域の文化遺産として広く周知することができました。

豪鳳の作品は、遺族の写真のフィルムとして保存しているものが200～300枚あります。このフィルムをスキャンし、色合いの調整を行いながらデジタル化するとともに写真を見やすいサイズに調整し冊子にしていっても見られるように整えていきます。

会長の佐さんは「各地域には誇るべきものがある。その誇りを発掘することで地域活性化のきっかけづくりになると思っている。今後も、江刺地域で有名な及川豪鳳を広く知ってもらいたいため、活動を継続していきたい」と意気込んでいました。

※本事業は、奥州市市民提案型協働支援事業補助金制度「チャレンジコース」（※補助率100% 上限5万円）を活用して実施しました。



実物の着物

いつでも鑑賞できるようにと、写真をデジタル化し、一覧にまとめたもの。撮影は今後も続きます。

大判プリンターで印刷した実物大の絵画。地道な努力の賜物。

- 団体名 豪鳳を考える会
- 設立 2021年
- 代表 及川 佐
- 趣 旨 及川豪鳳作品の保存・展示に関する活動（事業）を行うことにより、作品の普及を通じて地域の元気を図ることを目的とする。

市民活動を対象とした助成金や、団体支援に関するセミナー等の情報は、奥州市地域づくり推進課フェイスブックで随時、更新しています。

検索は <https://www.facebook.com/oshu.shiminkatudo/>

編集後記 秋といえば、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋…。貴方はどれを堪能しますか？私は、スポーツの秋と食欲の秋を満喫したいと思います♪